フォーラムニュース

特定非営利活動法人奈良２１世紀フォーラム会報

2013年新春号　No.22

平成２４年実施の主な事業

３月３日　藤岡家住宅見学と五條の伝統食の試食
５月４日　平城京天平祭に万葉けまり出演
６月２日　清光林業現地見学会
７月16日　森と水の源流館主催講演会に協力
《以上　会報No.21で報告》

９月９日　吉野川紀の川源流まつりに協賛
10月７日　東吉野の伝承料理と丹生川上神社秋祭り
10月21日　森と水の源流館主催講演会に協力
10月30日　岡村印刷工業見学会
11月10日～11日　第１回歴史フェスタで万葉けまりを披露
11月17日～18日　第３回大仏書道大会
12月１日　三和澱粉工業見学会

年頭のご挨拶

理事長　森本公誠

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には新春を迎えられて、益々ご清祥のことと心からお慶び申し上げます。

振り返ってみますと、何かしら毎年人々の心を動かす大きな出来事が起こるものですが、昨年はまさにそのことが政治のうえで起こったと言える年でした。むろん、ロンドン・オリンピックの成果や山中伸弥教授のノーベル賞受賞は日本に明るさをもたらしてくれました。しかし、相対的に日本を取り巻く政治情勢や経済動向は内外ともに至って厳しく、そうしたなかで、国民による劇的な政権交代が選択されました。三年前のことが思い出されますが、それがこれからの日本にとって吉であるのか凶であるのか、しっかりと見守ってゆかねばならないでしょう。日本という国家は一体どこへ向かおうとしているのか、と。

私はひごろ、ここ奈良に都が置かれていた時代に関心があるものですから、当時の国家の最高主権者、つまり天皇はどのような考え方で日本を統治しようとしていたのかを探ったことがあります。たとえば元明天皇（在位 707～715）は、詔で「国家の政治は、何よりも国民の救済を優先すべし」とか、「天皇の公民たる農民を指導しなければならない官僚でありながら、私利私欲に耽り、民の財産を侵害すれば、その人物は《国家の大いなる害虫》だ」とか述べておられます。また元正天皇（在位 715～724）も、「国家が隆盛かつ安泰であるためにまず大切なのは、人民を豊にすることである」などと述べられます。現代にも通じる政治思想だと思われませんか。

こうした二代の天皇の精神は、当然のことながら次の聖武天皇（在位 724～749）に受け継がれ、即位のときには、「自分が保持している日本国の統治権は先祖の神々から負託されたものであるので、権限をいただいた神々に対する責任として、国民を撫でるがごとく慈しむ」と宣言されるのです。むろん現代と 1300 年前とではまったく政治体制が異なります。しかし、この即位のお言葉は、現在我々が我々の代表として政治家を選ぶという投票権が、元来はかつて日本を統一して皇祖神となった天皇家先祖から負託された天皇の権限に由来するのだと気付かしてくれます。日本にはそのような歴史があるのです。

どうか会員の皆様方には、それぞれのご意見が反映されるように、出来るだけ当法人の各企画事業にご参加いただき、当法人がさらなる発展を遂げることができますよう願ってやみません。奈良 21 世紀フォーラムの活動を盛り上げて下さることを重ねてお願いし、新年のご挨拶と致します。

Ⅰ　平成２４年９月以降に実施した事業

１．万葉けまりの保存

◎　「第１回歴史フェスタ」に古代行事として万葉けまり出演

１１月１０日～１１日、橿原公苑に於いて実施された第１回歴史フェスタに参加しました。

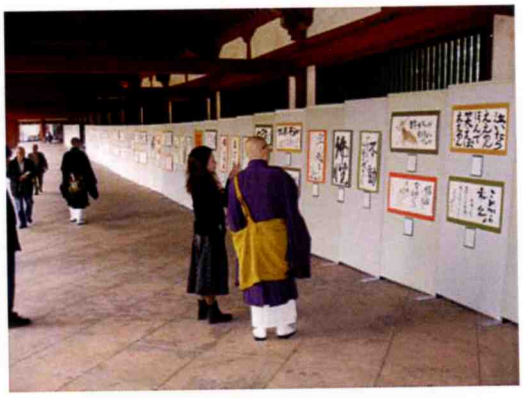
１０日、会場で蹴鞠ボールでのリフティング指導を行い、会場に来られた高校生等がリフティングを体験しました。

二日目（１１日）は万葉けまりの実演を行う予定でしたが、残念ながら降雨のため屋外での行事がすべて中止となり、けまり、リフティングとも行うことができませんでした。

２．書の文化の伝承

◎　第３回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日　平成 24 年 11 月 17 日（土）～１８日（日）
会　場　東大寺大仏殿西回廊
作品応募校　　５７校
作品応募点数　１０５８点
席書会参加者　　２０名



書道展

奈良の伝統「書の文化」を継承、発展の為第３回大仏書道大会を開催しました。

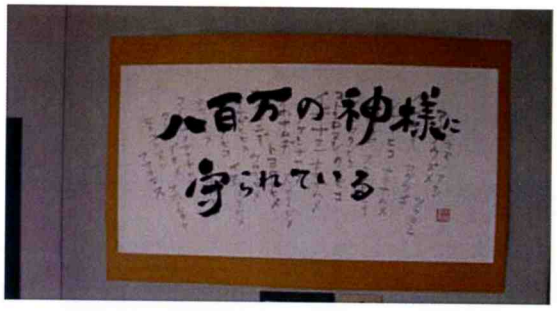
書道展は全国の高校生、および大学生を対象に「大仏さんに日本の未来を祈願する」、「大仏さんにあなたの未来を祈願する」、「古事記の世界に取材した文言を捧げる」「奈良の思い出」、「仏典から題材を得たもの」を課題に作品を募集しました。

表彰式

日本全国から、古事記を題材にしたものをはじめ、笑顔や人の絆、世界平和を思う気持ちを伝える言葉など、総数１０４８点の応募をいただきました。その中から１００点を入選とし、１１月１７日、１８日の二日間、東大寺大仏殿西回廊に展示をしました。また、

特別賞７点の入選者の方は１８日席書会の席で表彰式を行い、その栄誉をたたえました。

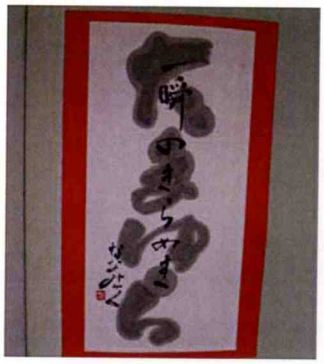
特別賞



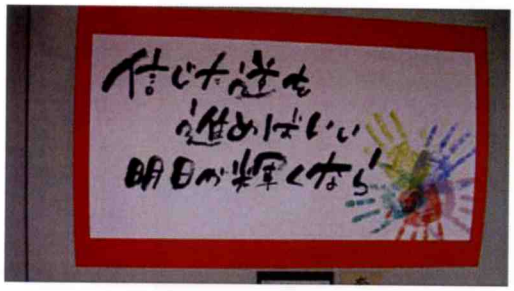
奈良県知事賞「八百万の神様に守られて」
奈良女子大学２年　七條友香さん

東大寺賞「摩訶般若波羅心経」
聖ウルスラ学院英知高等学校３年
中尾若菜さん

奈良県教育長賞「輪」
奈良教育大学
３年　栗原彩乃さん



奈良市長賞「たまゆら」
新潟県立新潟江南高等学校
２年　井上七海さん



奈良市教育長賞　「道」
大阪府立今宮高等学校
２年　島田梨沙さん

奈良２１世紀フォーラム
理事長賞　「佛」
札幌市立山の手養護学校
高校３年　小西貴之さん

朝日新聞社賞　「笑顔」
奈良学園登美ヶ丘高等学校
２年　高間直弥さん

初日の１７日はあいにくの雨天で、東大寺境内散策の方もほとんど無く書道展の観覧者も少なかったが、二日目の１８日は、晴天に恵まれ東大寺境内散策の方や大仏様参拝の方も見学に来られ、大勢の方にご覧いただきました。

また、１８日は展覧会のほか、席書会を実施しました。

席書会は、午前１０時から大仏殿西回廊奥の脇回廊において実施しました。会場は大仏殿参拝の通路にもなり韓国や、中国の方など外国からの観光客も見学され、書の文化啓発の一助になりました。

席書会には、近畿地区から２０名方が参加され、森本長老の講話のあと、「唯心偈」の写経と自由題による揮毫を行いました。

席書会

終了後、大仏様の前に登壇、作品の奉納を行い、書道大会のテーマである日本の未来、自分の未来を大仏様に祈願しました。

３．奈良の食文化の伝承・奈良県内の神社仏閣等、歴史文化資源の顕彰

◎　「東吉野の伝承料理と丹生川上神社秋祭り」を開催

実施日　１０月７日（日）

参加者　３２名

奈良県東南部にある東吉野村で、神武天皇の東征ゆかりの丹生川上神社（中社）の参拝と伝承料理を試食する会を実施しました。

当日は近鉄八木駅へ集合し、貸切バスに乗車、一路東吉野へと向かいました。約 1 時間で、東吉野村小村の旅館杉ヶ瀬に到着。東吉野村の元教育次長で現在ボラティアガイドとして活躍中の上辻元治さんや女将さんに出迎えていただきました。

早速上辻さんから「丹生川上神社と森口奈良吉翁」の演題で、ユーモアを交えて約 50 分お話しをいただきました。

丹生川上神社の創建は、天武天皇４年（西暦 675 年）であるから始まり、平安中期以降、同社は、朝廷が国家の重大事に当たり奉幣を奉られた２２社の一に加えられ、その奉幣は９６回に及び、社格の高さをうかがわせている。

文明４年（1472 年）応仁の乱のため、祈雨奉幣が中止され、以後同社は衰微し、所在不明となっていた。

寛文１０年（1670 年）白井宗因が同社の所在を丹生村（現下市町）の丹生大明神とし、それが定説となり明治４年（1871 年）丹生大明神を丹生川上神社として官幣大社に列せられていたが、明治６年（1873 年）同社（現下社）の小宮司江藤正澄が、寛平７年（896 年）の太政官符の内容と一致しないことから、川上郷迫村にある高靇神社も丹生川上神社とし所轄した。そして明治２９年（1896 年）江藤小宮司の説が認められ下市町丹生を下社、川上村迫を上社とし二社とも官幣大社とされた。

その後大正４年に、森口奈良吉翁（明治 8 年生まれ、奈良市立実科高等女学校長、奈良女子高等師範学校教諭、春日神社禰宜を歴任）が、蟻通神社が延喜式内の丹生川上神社であることを発表、同年 8 月蟻通神社の「祭神変更、社名復旧並びに社格昇進願書」を提出し、大正１１年１０月、正式に郷社蟻通神社は丹生川上神社と改称し官幣大社に昇格した。

以上のように午後から参拝する丹生川上神社３社の歴史を、多くの資料を用い丁寧に解説していただきました。

講演終了後、早めに伝承料理の昼食をいただきました。

初めに、旅館お若女将より料理の説明を受け、地元の料理や、創作された料理をいただきました。

＊当日いただいたメニュー

- 朴葉包みの栗おこわ(朴葉はシーズン的には最終だそうです)
- 落鮎（子持ち）の甘露煮（祭りや正月には必ず子持ちを使う）
- 小あまごのから揚げ、ししとう添え
- さつまいもと柿の白和え
- 牡丹鍋（しし肉、野菜、キノコ数種）通常のメニューはしゃぶしゃぶ
- デザート（果物）

食事をいただいた後、旅館より４ｋｍほど離れた丹生川上神社（中社）へ移動しました。

神社の約 1 キロ手前の駐車場で下車、途中、特別公開中の、俳人原石鼎ゆかりの石鼎庵に立ち寄られながら神社へ向いました。

丹生川上神社（中社）の秋祭りは、小川祭りとも呼ばれ、勇壮な太鼓台が有名です。午後１時ごろ、８つの地区（木津川区、中黒区、小栗栖区、大豆生区、狭戸区、三尾区、小区、小川区）から８台の太鼓台が、順次神社に集結、先着の太鼓台から、拝殿に駆け上り、宮司さんからお祓いを受けた後、境内を威勢よく練り歩きました。

太鼓台に搭乗している子供たち（お稚児さん、4 人）は、地に足をつけてはいけないことになっており、太鼓台が休憩している時も大人の肩車に乗り参拝し、再び太鼓台に乗って蟻通橋を渡って摂社丹生神社（本宮）に参拝し祭りの無事を祈っていました。

「太鼓台」は１トン以上の重量で、さらにこどもが４人乗るので大変な重さですが 50～60 人が交代しながら、担ぎ上げているその姿は文字通り勇壮でありました。昨今は担ぎ手集めが大変で、四分の三（特に若者）は、村外からの帰省者、あるいは応援者で占められているそうです。今年は８台揃っていましたが、年により太鼓台が出せない時もあり祭を維持する地元の皆様の苦労が伺えます。

この小川祭り、別名喧嘩祭りと言われております。実際十数年前までは、地区を分けた喧嘩が多く喧嘩祭りの異名を馳せていましたが、事故者が出たこともあり、神主が「そもそも当神社は和合の神様であり喧嘩をしてはならぬ」と説得され現在別名は残っていますが喧嘩は無いそうです。

８台が順次境内に集結し、威勢よく練り歩き、やがて２時半ごろには８台が整列し、“よいとしょ”の掛け声とともに高々と太鼓台を上に捧げクライマックスを迎え、土地っ子でなくても、感動の涙が出るシーンでもありました。

やがて「太鼓台」は周囲に引き、見物客が境内を埋め、３時になると合図とともに恒例の餅まきが始まりました。各８地区から神前に供えられた餅は、全員に当たるほど充分用意され、手のひらサイズから直径３０ｃｍほどの大きなものまで境内にまかれました。餅まきの余韻の残る境内を後に、帰路につきました。

帰りのバス中で森本長老からご挨拶をいただき、これまでよくわからなかった、丹生川上神社の上社、中社、下社の関係が理解できたとのお言葉をいただき「東吉野の伝承料理と丹生川上神社秋祭り」見学会を終了いたしました。

４．吉野川源流の水源地を守る活動支援

◎　吉野川・紀の川源流まつりへ参加

９月９日、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」の一環として、吉野郡川上村の森と水の源流館で開催された吉野川・紀の川源流まつりへ参加しました。

本年は、例年行われていたふれあいデーと合せて、紀の川（吉野川）流域市町村物産展が

開催され、和歌山市をはじめ橋本市、五條市など流域１２市町村からの出店がありました。

当フォーラムは恒例の新鮮な長野県川上村の高原野菜、白菜、キャベツ、とうもろこしと東北大震災支援として福島県産のリンゴを販売しました。

源流まつりは、川上村民を中心に大勢の皆様が集まり、地元物産の販売や、クラフトコーナー、川辺の運動会などがあり、盛大に行われました。

◎　森と水の源流館主催講演会に協力

１０月２１日に実施された川上村教育委員会、川上村立図書館・森と水の源流館開館１０周年記念講演会に参加、運営協力を行いました。

当日は川上村のやまぶきホールに於いて「古事記にうつる源流の郷」と題し、立正大学文学部教授三浦佑之氏による講演会が実施されました。当フォーラムのメンバーは受付、誘導等の業務を行いました。

会場には、村内をはじめ、県外からも大勢の方来場され、三浦教授の古事記、日本書紀の神話に描かれた世界をわかりやすく解説していただきました。

フォーラムからは１３名が参加しました。

５．会員企業見学会

◎「岡村印刷工業株式会社本社工場」の見学会を開催

１０月３０日（火）高取町車木にある岡村印刷工業株式会社の本社工場を訪問、事業の概要、本社工場の見学、そして車木工房の見学をしました。

当日は２０名の方にご参加いただき、岡村印刷の発祥の地である高取町車木にある本社工場に集合いたしました。岡村元嗣社長、中川取締役、原田取締役らの出迎え受け、まず岡村社長自ら岡村印刷の概要を説明していただきました。会社発足の歴史、そして事業内容と会社経営の理念などの説明していただきました。

・顧客を、１業種１社に限定する。

・印刷の精度、効率を上げるため日本で最初に工場に冷房装置を導入したり、工場の印刷機械を置く地盤は、機械振動の安定と地震対策のため、常識の３倍に当たる３メートル深さにされたといった技術環境の整備。

・社章のひし形の中に数字の２のマークは、たとえトップの技術、企業であろうともトップを追う努力を忘れてはいけない気持ちのチャレンジ精神を２で表しているとのことといった企業の取組む姿勢をお話いただきました。

また、生産技術課長の岡本さんから印刷の技術についてパワーポイントを用い詳しく説明していただきました。岡村印刷は技術的に優れた会社で他にできない技術をお持ちであり、チャレンジ精神を忘れないトップ企業であることがよく分かりました。

その後、工場内に入り、パソコンで東京や大阪の営業部門から送られてきたデーターを元に製品にする作業、高速印刷中にチェックのため軽業のように紙を抜き取る若い工員の動きや、進行中のカラー印刷の色調を肉眼でチェックする熟練工、印刷されたカレンダーの裁断、製本の工程を興味深く見学しました。

工場見学をした後車木工房に移り、工房にて職人さんから石版の実物を見ながらリトグラフの説明を受け、奥の工房では、ドイツ製の用紙を使ってエッチングのデモンストレーションを拝見しました。さらに、車木ギャラリーに移り、中川一政、小泉淳、千住博等有名作家の版画を見ながらお茶をいただきました。陶器の工房も本格的なもので、屋外には登り窯もあり、昨今作陶で有名になられた、細川護熙元首相は、当工房で陶芸を始められたそうで作品の展示もされていました。

車木工房では石版画・銅版画・陶器の３部門に分かれ、社員の方が実際の製作作業をおこなっているほか、日本を代表する先生なども来られ製作に打ち込まれる場所にもなっているそうです。

最後にメダカの飼育のお話を伺い岡村印工業様の環境への取り組みに感心をさせられました。

繁忙期のお忙しい中丁寧な説明案内をいただきありがとうございました。

◎「三和澱粉工業株式会社本社工場」の見学会を開催

１２月１日（土）橿原市の三和澱粉工業株式会社の本社工場を訪問、事業の概要、本社工場の見学、そして三和澱粉工業の関係先でもある今井町にある河合酒造の見学をしました。

当日は三和澱粉工業本社に２６名の方にご参加いただきました。

和田工場長様をはじめ、山本総務人事部長らの出迎え受け、まず和田工場長から三和澱粉工業の概要を説明していただきました。会社発足の歴史、そして事業内容と会社経営の理念の説明していただきました。トーモロコシを原料にコーンスターチを生産し、そこからさらに加工され食品用澱粉や工業用澱粉になり身近な商品となっていることを説明いただきました。澱粉が食品に含まれていることは理解していましたが、食品以外にダンボール、板紙といった工業製品にも使われていることを教えていただきました。

さらに自家発電装置の充実には驚かされました。早くから自家発電に取組まれ、昭和６２年に発電を開始され、これは県内最初の火力発電所だそうです。

平成１８年にガスタービンコジェネレーションシステムを稼動され、自社消費はもちろん発電量の半分は関西電力に販売をされており、電力不足の今日、その先見の明に驚かされます。

発電システム、工場内、食品応用開発室を見学し、あらためて澱粉についてのお話を伺いました。三和澱粉では、トーモロコシを原料の製品化されていますが、そのほかの馬鈴薯、カタクリ、葛などの澱粉成分の説明をしていただきました。その他米の澱粉の生産を米どこ

ろ新潟県の関係会社で生産されているそうです。澱粉業界の国内トップ企業として、活動の広さがうかがえました。

午後から国の“重要伝統的建造物群保存地区”今井町にある旧家河合家を訪問し、酒蔵の見学をしました。
河合酒造は女性杜氏（社長さん）が醸し出す「出世男」を醸造している江戸時代から続く酒蔵です。最近は、和風酒ケーキなど新しい商品にも取組んでおられます。ご参加の皆様は、お酒やケーキをお土産にされ、見学会を終了しました。

終了後、今井町の街並の散策を行い解散しました。

Ⅱ　今後の予定

平成２４年１２月末現在実施予定の行事は以下のとおりです。

○　１月１２日（土）奈良の食文化の伝承
　　達磨寺初詣と谷家伝来のおせち料理
○　１月１３日（日）万葉けまりの保存
　　静岡県藤枝市で万葉けまりの披露
○　２月１８日（月）会員企業訪問
　　小山株式会社本社工場の見学

行事への参加、応援よろしくお願いします。